

和東町立学校の耐震化の状況について

内容現在：平成20年4月1日

1 趣旨

学校施設は、児童生徒等が一日の大半を過ごす活動の場であり、非常災害時には地域住民の応急避難場所としての役割も果たすことから、その安全性の確保は極めて重要である。

学校施設の耐震化は、国を挙げての急務とされており、和東町でも公立学校の耐震化に積極的に取り組んでいく必要がある。

和東町教育委員会は、自ら管理する町立学校施設について、広く情報をオープンにし、住民の皆様に学校施設の耐震化の重要性を認識いただきながら、耐震化の取り組みを進めていくものとする。

2 町立学校の耐震化率

区分	学校数	全棟数		要改修	耐震化率 B/A
		A	B		
小学校	1	4	4	0	100%
中学校	1	3	1	2	33.3%
計	2	7	5	2	71.4%

3 耐震化の状況・学校別一覧

学校名	棟用途	棟		建築年月	構造	階数	面積 (㎡)	区分	第2次診断		
		番号	枝番						年度	Is値	CT・SD値
和東小学校	管理棟	1		平成4年2月	RC	2	2,387	新基準	—	—	—
	教室棟	2		平成4年2月	RC	2	869		—	—	—
	特別教室棟	3		平成4年2月	RC	2	877		—	—	—
	屋内運動場	4		平成4年3月	RC	1	1,004		—	—	—
和東中学校	管理・特別教室棟	1		昭和37年12月	RC	3	1,277	旧基準	平成	0.50	0.39
	普通教室棟	1	2	昭和37年12月	RC	3	1,250		19年度	0.27	0.30
	屋内運動場	9		平成10年3月	RC	2	1,101	新基準	—	—	—

〈用語の解説〉

- 耐震診断とは：昭和56年以前の基準で設計された既存建物が、大地震に対してどの程度耐えることができるか調べるもので、その精度から第1次から第3次までであるが、柱・壁の量や鉄筋の量、コンクリート強度等から推定する第2次診断が一般的である。

- 2 「区分」欄に「旧基準」とあるのは新耐震基準施行（昭和 56 年）以前に建築されたものを、「新基準」とあるのは新耐震基準施行後に建築されたものをいう。
- 3
 - ① 「新基準」との表示のあるものは、耐震性があるので「区分」欄から右の各欄は、すべて「－」としている。
 - ② 「旧基準」との表示のあるものの内、未改修のものについては「第 2 次診断」を実施しているので、該当する欄にそのデータを記載している。「第 2 次診断」は個別の建物の耐震性能を詳細に評価する診断方法で実施した。「年度」、「I s 値」及び「CT・SD 値」（後述）をそれぞれ欄に記載している。
 - ③ I s 値（構造耐震指標）：その建物が地震にどのくらい耐えられるかを表す指標。2 次診断では I s 値 0.6 以上で耐震性能を満たすとされるが、文部科学省は学校では 0.7 以上に補強するよう求めている。
 - ④ CT・SD 値：CT（累積強度指標）と SD（形状指標）の積で、I s 値が高くてこの値が低い場合は安全としない目安。1.25 以上では I s 値が低くても安全とし、0.3 以下では I s 値を満足しても安全としない。